

ロサンゼルス留学記

亀田 啓 (北海道大学 17 年卒)

糖尿病内分泌グループの亀田 啓 (ひらく) と申します。私は渥美達也教授のご高配を賜り 2015 年 5 月から 2018 年 3 月まで米国ロサンゼルスにある Cedars Sinai Medical Center に留学させて頂きました。同グループに所属する妻の玲奈 (昭和大学 21 年卒) も一緒にロサンゼルスで生活しておりました。

留学の経緯

大学院時代は日々の診療・研究に忙しく先の展望をあまり持てずにいたのですが、卒業が見えてきた頃になりやっと将来の事を考える余裕が出てきました。内分泌科医として生きていくことは帰局時に決めていましたが、内分泌臓器の中でも最も自分の興味を引いた下垂体を専門としていくことに決めました。しかし下垂体の専門施設は国内には少なく、自分のレベルを高めるためには海外の施設で経験を積むことが重要と考え、海外留学を考えるようになりました。渥美教授からも海外で研究することは専門分野のことだけでなく日本以外に生きる人たちの考え方・生活を肌で感じるためにも良いことであると伺い、背中を押して頂きました。

留学先のアイデアはその時点では何もありませんでした。神戸大学の先生がその時ちょうど Cedars Sinai Medical Center への留学から帰国されておりお話を伺うことができ、また下垂体の研究室を主宰する Melmed 先生にご紹介頂くことができました。その後 Melmed 先生と Chicago での海外学会でお会いし自分のこれまでの研究内容をプレゼンテーションし、幸運にもその場で留学を許可して頂くことができました。Olga 先生の主催する English Seminar での英語プレゼンテーションの練習が役立ち、Olga 先生には大変感謝を申し上げます。

Melmed Lab

Cedars Sinai Medical Center はロサンゼルスビバリーヒルズ近くにある病床数は約 1000 床、2000 人以上の医師が勤務する規全米でもトップクラスの規模の病院です。研究施設を併設していることが特徴であり、基礎研究から臨床への応用を素早く行える体制が整っています。

下垂体の診療については Pituitary Center が設置されており、脳神経外科の下垂体専門チームと内分泌内科が下垂体疾患を共同で診療する体制になっています。私の留学している Melmed Lab は世界でも数少ない下垂体を専門とする研究室であります。Principal Investigator の Shlomo Melmed 先生は前述のように 40 年以上も下垂体の診療・研究に携わってきた方であり、下垂体の specialist を目指す私にとってここの研究室に来られたことは非常に嬉しく思っております。

Lab の研究テーマは下垂体疾患、特に下垂体腫瘍に集中しており ACTH 分泌系の腫瘍と GH・PRL 分泌系の腫瘍、またそれらに発現するソマトスタチン状態の研究と下垂体に特化しながらも幅広い範囲をカバーしています。私は ACTH 系のチームに属し ACTH の前駆体である POMC の

発現調節や ACTH 産生腫瘍のモデルマウスを用いた実験を行いました。これらの研究の中で得た知識・テクニックは帰国後自らの研究を立ち上げていく中で大変に役立っています。

Los Angeles

私たちが暮らしていたロサンゼルスは南カリフォルニア地域にある晴天が続く常夏の街であります。ロサンゼルスにはハリウッド、ビバリーヒルズ、サンタモニカなどの観光地があり、また州内にはサンフランシスコやサンディエゴといった景色の美しい街があり休日にも楽しく過ごせる場所です。少し足を延ばせばヨセミテ国立公園、グランドキャニオン国立公園など美しく壮大な自然に出会うことができました。またカリフォルニア州は日本人の居住者も多く、日系スーパーマーケットも多く存在し日本食に困らないのが良いところです。また、世界中から移民が集まる街でもあり世界各国の料理を楽しむことができました。

最後にこのような貴重な留学という経験をさせて頂いたことに渥美教授、Olga 先生ならびに第二内科の皆様に感謝を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



写真：アナハイムのディズニーランドにて